

2022 TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup

参戦レポート② 東日本第5戦

@スポーツランドSUGO



著：ささ子レーシング 土屋



大会概要

開催レース：SUGOチャンピオンカップ 第5戦

開催場所：スポーツランドSUGO（全長3586m）

参加クラス：TOYOTA GAZOO Racing YarisCup 東日本シリーズ第5戦（以下ヤリスカップ）

日時：2022年8月20-21日（土曜日：専有走行 日曜日：予選/決勝）

参加台数：49台（CVTクラス除く41台）

大会公式サイト：<https://toyotagazooracing.com/jp/yariscup/>

結果概要

エントリー名：ケイズばんから制動屋Yaris

カーNo:335

ドライバー：土屋耕太

メンテナンス：ケイズファクトリー

前日専有走行：1分50秒6

予選：1分51秒151

決勝：21位 のちに繰り上がり16位

ベストタイム：1分51秒264

（※非公式）

（B組12位, 総合24位）

（決勝進出45台/49台中）

（決勝7LAP目）



エントリー総数49台中24位スタート、最終順位16位でフィニッシュ致しました

8/19 特別スポーツ走行

金曜日は2枠のスポーツ走行を使い、セットのマッチングと路面の確認を行います。
今回はGTWC asiaやGR86/BRZcupが併催されることから、
路面へのラバーの乗り方で車両の挙動が変化することが見込まれます。

非公式計測ながら1分50秒の中盤をマーク、
仮想ベストではトップ争いも見えるタイムを記録し、
今週末の走行に手ごたえを感じました。

8/20 AM TRA専有走行

前日までの雨予報に対し、辛うじてドライでのセッションとなりました。
気温は前日より低いものの、湿度が高く僅かにタイムが伸び悩みます。

タイムは1分50秒661でB組11位、総合で20番付近に位置します。
この時点でトップから約1秒の差を開けられてしまいます。
1秒の間に20台ほどの車両がいることから、
競技レベルが昨年を遥かに上回っていることを痛感します。

この日は午後にメンテナンスと車検を受けて終了です。



8/21 予選(B組10時35分～15分間)

この3日間で最も暑く感じる日曜日、
いよいよ決勝グリッドを決める15分間の予選が始まります。

直前に走行したA組のタイムを見ると、前日までのタイムに対して
更にタイムダウンしている傾向が見られ、路面や外気状況が厳しい様子が伺えます。

タイヤの感覚を確かめ、3LAP目にアタックを掛けます。
直前のSPコーナーでリアがスライドしてしまい、最終セクター入口で失速。
しかし諦めずにアタックを掛け、1stアタックは1分51秒348をマーク。
更に連続でアタックを掛け、次のラップに1分51秒151で自己ベストを更新。

その後もタイミングを見計らい再度アタックを仕掛けますが、
既にタイヤの美味しいタイミングが過ぎてしまい、残念ながらベスト更新ならず。

トップから1秒差の1分51秒151でB組12番手、合算で24位スタートとなりました。
A組の同列の選手よりベストタイムは良かったため、決勝での追い上げ勝負に
切り替えます。



8/21 決勝①(14時30分～10周)

最も暑い時間帯にいよいよ決勝レースが始まります。

今回はイン側スタートの為、3コーナーまでの位置取りが非常に重要となります。

シグナル減灯から10周の決勝がスタートしました。

12列目はわずかに下り始めており、トラクションのかけ方に気を使います。

スタートが決まり、1コーナーまでに前方との差を詰めていきますが、

前をふさがれる形で隊列になってしまい、3コーナーまでに抜きに掛かる事ができません。

S字で目の前の車両同士の混乱があり、加速が鈍ったところで1台にパスされますが、その後のレインボーコーナーでコースオフした車両を交わしポジションをキープします。

そのまま馬の背の飛び込みまでにブレーキングで勝負を仕掛けますが、左のタイヤが路肩のダートに落ちてしまい、挙動を乱してしまいます。

最終コーナーで前方との間合いを合わせ、スリップから抜けた2周目の1コーナーでアウトから様子を伺いますが、オーバーテイクには至りませんでした。

この周は虎視眈々とチャンスを伺いますが、各所スキが無く、3周目に賭けます。

3周目、車両が馬の背を通過するあたりで、停止車両が発生、SC導入となります。一旦勝負は仕切り直しとなり、レース再開までのタイミングを見計らいます。



8/21 決勝②(14時30分～10周)

5周目のSCランで隊列のペースが上がるのを感じ、6周目のレース再開と共に1コーナーで再び勝負を仕掛けます。抜き切ることはできませんでしたが、スリップからの加速に手ごたえを感じました。

その後のS字で、失速した別の車両をパスし1つポジションをアップします。しかし、直後の馬の背の飛び込みで姿勢を乱したことから、ABSが強く作動してしまい、逆にインを狙われる展開となってしまいます。

7周目の1コーナーまでにポジションを守り抜き、再度前方の車両を追いかけます。まだまだ当車両の速さは衰えず、最終コーナーまでに追いつくと、インから並びかけて8周目の1コーナーでパスすることに成功します。

更に前の集団は団子状態で、8周目の裏ストレートまでに追いつきました。しかし、前方では常に2ワイドの攻防をしていることから、こちらのペースは良くても抜く隙間がありませんでした。

9周目、10周目と前方の攻防に巻き込まれそうになりながらも、ミスを狙いますが、最後まで抜くことはできず、スタートから3ポジションアップの21位でフィニッシュ。その後、黄旗中の違反等の裁定もあり、8ポジションアップの16位が確定しました。

決勝中の速さは他車に負けていない中、ホームコースでこの順位となってしまった為、予選で納得のいくアタックが出来なかったことが非常に悔やまれます。



フォトギャラリー



Special Thanks (敬称略)



kei's factory



笹谷部
R-286 Touring



HACTION!® S|NDESIGN



Selffresh
セルフレッシュ



トータルサポートコンサルティング株式会社



**10月8日開催のSUGOはスキップし、次戦は11月12-13日
スポーツランドSUGO(第8戦)の今期最終戦にエントリー致します！
厚いご支援ご声援の程、宜しくお願い致します**

